



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2003年7月1日発行

たんけん通信 第4号

2003年度事業計画

鵜沼地区(藤沢)でも 「おもしろ科学体験塾」を開設

子どもたちに、科学の原理にかかわる面白い実験・工作や自然観察などを体験できる場を提供しようという意図のもとに、2002年度は、2箇所でおもしろ科学体験塾を開催してきましたが、2003年度は、湘南台高校(湘南台)、横浜女性フォーラム(戸塚)に、さらに藤沢市立鵜沼中学(本鵜沼)が加わり、3箇所、「おもしろ科学体験塾」を開設することになりました。

これは、鵜沼中学校長の澤野先生の大英断によるものです。心から感謝申し上げます。

4月から9月までのおもしろ科学体験塾の内容は以下のようになっています。6月までは実績7月開催分は参加者募集中ですが、9月分については予定で、まだ募集を開始していませんのでご注意ください。

4月～9月の科学塾内容一覧

| 月日 | 地区 | 内容 |
|-------|---------------|-----------------------------------|
| 4月19日 | 湘南台 | 親子で楽しむたんぼぼ調査 |
| 5月17日 | 湘南台 | 紙ヒコーキ パートⅡ |
| 5月24日 | 鵜沼 | いろいろな電池を作ってみよう |
| 5月25日 | 戸塚 | 砂糖水で光がまがる? |
| 6月14日 | 鵜沼 | 磁石と電気のふしぎ ーモーターを作ってみようー |
| 6月21日 | 湘南台 | 空気の重さ、圧力のふしぎ |
| 6月28日 | 戸塚 | 太陽熱で回る風車をつくろう |
| 7月12日 | 鵜沼 | 紙コップでヘッドホンを作ろう |
| 7月19日 | 戸塚 | 夏だ! 舟をはしらせよう ーいろいろな動力で動く舟ー |
| 7月26日 | 〔湘南台〕 〔鵜沼〕 | セミのぬけがらを調査しよう ーセミのぬけがら鑑定士養成講座ー |
| 9月20日 | 湘南台 | (仮題) マイコン入門 ー電子サイコロを作ってみようー |
| 9月27日 | 戸塚 | 紙コップでヘッドホンを作ろう |

★日時を変えて各地区でほぼ同一の内容を、繰り返します。
参加しそこなった方、同じ内容でももう一度参加したい方は他の地区で、参加できます。

＝科学体験活動インストラクター育成＝ ボランティア体験研修会開催

(財)横浜市女性協会との共催
3日間の集合体験実習を

戸塚の横浜女性フォーラムで

おもしろ科学たんけん工房の事業目的は、子どもたちが、身近な場所で科学にかかわる体験学習できるような環境を、広くあまねく作り出すことです。

そのためには、多くのボランティア指導員が地域に存在する必要があります。今のスタッフでは到底足りません。地域の市民が一人でも多く、この事業にボランティアとして参加することが必要です。

そこで、今年は財団法人横浜市女性協会と共催の形で、「科学体験活動インストラクター体験研修会」を開催することになりました。

簡単に言えば「科学体験活動ボランティア」をやってみようという方の入門講座です。難しい知識を学ぶのではなく、まず体験してみるという機会です。

どなたでも意欲さえあれば、参加できます。
多くの方のご参加を期待しています。

詳細は、別紙募集案内チラシをご覧ください。

第1日 8月23日(土) 午前9時半—午後4時
第2日 8月24日(日) 午前10時—午後4時
第3日 8月30日(土) 午前10時—午後4時半

場 所 横浜女性フォーラム 2F 生活工房
(戸塚駅西口から徒歩7分)

＝学校支援ボランティア活動＝

鵜沼中学校 部活支援プロジェクト

おもしろ科学たんけん工房の事業活動のもう一つの形—それは学校支援ボランティア活動です。昨年度は、藤沢市立大清水中学校で実施しましたが、今年度は鵜沼中学校で、科学部の顧問の先生と協力して生徒たちの部活動の支援を行なうことになりました。参加するのはおもしろ科学たんけん工房の正会員スタッフ5～6名で、交代で各自得意なテーマで生徒の相談にのります。

去る5月31日に開催された総会で、下記のとおり2002年度決算、2003年度予算が承認されました。決算書のほかに詳細な事業報告書を神奈川県に提出しており、定款、役員リストなどと共にどなたでもこれをご覧になることができます。

2002年度 収支決算の概要

| | 科 目 | 金額(千円) | 内訳金額 |
|----|------------|--------|-------|
| 収入 | 会費・入会金収入 | 290 | |
| | 正会員会費 | | 210 |
| | 賛助会員会費 | | 80 |
| | 事業収入 | 398 | |
| | 科学塾参加費 | | 398 |
| | 育成事業参加費 | | |
| | 寄付金 | 1,206 | |
| | 企業からの寄付 | | 1,000 |
| | 個人寄付 | | 206 |
| | 助成金・補助金収入 | 190 | |
| | 受取利息雑収入 | 7 | |
| | 当期収入小計 | 2,090 | |
| | その他収入(非現金) | 428 | |
| | 任意団体からの引継 | | 88 |
| | 助成金(期末未収金) | | 339 |
| | 当期収入合計 | 2,518 | |
| | 前期繰越収支差額 | 0 | |
| | 収入合計 | 2,518 | |
| 支出 | 事業費支出 | 1,280 | |
| | 1 科学塾その他計 | | 1,280 |
| | (区分経理せず) | | |
| | 管理費支出 | 665 | |
| | 当期支出合計 | 1,945 | |
| | 当期収支差額 | 573 | |
| | 次期繰越収支差額 | 573 | |

2003年度 収支予算の概要

| | 科 目 | 金額(千円) | 内訳金額 |
|----|-------------|--------|-------|
| 収入 | 会費・入会金収入 | 470 | |
| | 正会員会費 | | 270 |
| | 賛助会員会費 | | 200 |
| | 事業収入 | 606 | |
| | 科学塾参加費 | | 545 |
| | 育成事業参加費 | | 60 |
| | 寄付金 | 920 | |
| | 企業からの寄付 | | 770 |
| | 個人寄付 | | 150 |
| | 助成金・補助金収入 | 290 | |
| | 雑収入 | 0 | |
| | 当期収入小計 | 2,286 | |
| | その他収入(非現金) | 0 | |
| | 当期収入総合計 | 2,286 | |
| | 前期繰越収支差額 | 573 | |
| | 収入合計 | 2,858 | |
| 支出 | 事業費支出 | 1,888 | |
| | 1. 科学塾 | | 1,408 |
| | 2 普及啓発活動 | | 221 |
| | 3 学校支援ホラティブ | | 43 |
| | 4 ホラティブ発掘養成 | | 216 |
| | 管理費支出 | 288 | |
| | 予備費 | 100 | |
| | 当期支出合計 | 2,276 | |
| | 当期収支差額 | 10 | |
| | 次期繰越収支差額 | 583 | |

2002年度収支についてのコメント

企業からの寄付と助成金収入により おかげさまで余裕のある初年度でした

NPO法人として2002年4月に立ち上げた時すでに支援をお願いしていた企業(ソニー株式会社)から寄付の約束を頂いていたこともあり、立ち上げ初年度としては、比較的余裕ある運営ができました。

それに加えてタイミングよく下記のとおり、公共的な助成金を獲得できたことも大きく貢献しています。

1. (財)横浜市女性協会から、
支援助成金 100,000円
2. 神奈川ゆめコープから
わくわく創造パートナーズ
助成金 140,000円
3. 独立行政法人 国立オリンピック記念青少年
総合センターから
子どもゆめ基金助成金 289,425円

苦しい 2003年度の台所事情 財政の確立が課題

初年度にひきかえ、2003年度は、事業の方は、順調に拡大基調にあり、それに伴って支出が増えることは確実なのにはたいし、収入のほうは大変不安な状況になっております。

まず、立ち上げ支援を頂いたソニー株式会社からは今年度も500,000円の寄付をいただくことができましたが、その他の企業からの寄付を何とか300,000円くらい獲得したいと予算に計上したものの、この不況下で、どこまで可能かはまったく分かりません。

また、助成金については、前半の事業の一部について、横浜青年会議所の「横浜ひとつづくり推進事業」助成金290,000円が決まっているだけです。

したがって、賛助会員の拡大と個人寄付の拡大が、急務となっています。昨年度のご支援に引き続き、皆様からの一層のご支援をお願いします。

** 市民の皆さん、地域の方々からの 財政支援をぜひともお願い申し上げます。

この欄では、スタッフのプロフィールを紹介してゆきます。今回はその第3回 川口さんと木下さんです。

プロフィール 川口浩一さん

- Q 生まれた年と、簡単な略歴を教えてください。
- 1941年生まれ。大学では電気工学を学び商社に就職。一貫して通信機器システムの輸出に従事しインドネシア、サウジアラビア、英国、ブルガリア、中国に通算14年超駐在。2年前に最後の赴任地、天津で定年を迎えた。
- Q たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を簡単に説明してください。
- 藤沢市立鶴洋小学校、同鶴沼中学校、そして高校も大学も一緒だった友人から鶴中同期会の席上で勧められた。

- Q たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- 6月に初講座「空気の重さ、圧力のふしぎ」を担当します。準備でいろいろ調べてみると



おもしろいことがいっぱい。音、静電気など自然科学の分野で児童・生徒が興味をもつテーマを見つけてゆきたい。

プロフィール 木下和久さん

- Q 生まれた年と、簡単な略歴を教えてください。
- 昭和8年1月生まれ、大手の鉄鋼会社(鉄鋼材料の研究開発部門)を定年まで勤め、その後機械製造会社で9年ばかり製造技術を担当したり、生産管理のコンピューターシステムを開発したりしました。専門は金属工学ですが、最近ではコンピューターソフトの開発を専門としています。
- Q たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を簡単に説明してください。
- もともと小さいときから「科学少年」を理想とし、中学・高校時代には、化学実験やラジオの組立に興味を持ち、天体望遠鏡を自作して星空を眺めたりしたものです。定年退職してからは、たまたま橋本静代先生の「発見工房クリエイト」の活動を知り、その賛助会員になりました。その関係で安田さんが目をつけられて、「たんけん工房」の設立構想を実現する際の発起人に誘われたのです。
- Q たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- 現在は、趣味から発展したボランティア活動の他に、地域のボランティア的な公職を数多く引き受けてやたら忙しく、たんけん工房の活動にも十分のお手伝いできない状態です。ゆくゆくは安田さんがいわれている「草の根活動ネットワーク」の一端を受け持つような、近所の理科好きな子どもを集めて好きなように理科の実験や工作をやらせる、小さなグループを作ることができたら、などと考えていますが、この多忙状態が解決される頃には年をとって何もなくなるのではないかと心配です。



- Q 趣味・道楽は？
- 旅行、写真、切手、音楽、テニス、自転車、パソコン
- Q 子どもたちには是非すすめたいことは？
- 気になったふしぎなことを見逃さないで、なぜなのかを考え、分らなくてもあきらめない。自分で考え、しらべ、分らなければ質問する、そうした努力が発見・発明をもたらす。
- Q その他付け加えたいことあれば自由一言。
- 鶴洋小学校2年生の時に百日咳で長いあいだ家で寝ていました。その時に両親が買ってくれた本をよく読みました。「つらいことは人間をつよくしてくれ」と今でも思っています。

- Q 趣味や道楽は？
- 趣味はコンピューターと、クラシック音楽、旅行などです。中でも、コンピューターのソフト開発は趣味と実益を兼ねた視覚障害者のための漢字利用ソフトの開発で存分に生かされています。音楽に関しては、最近のAV機器のすばらしい発展の恩恵を受け、CD-Rを作ったり、ハードディスク付きDVDレコーダーで衛星放送の映像を録画したりと、わずかな自由時間を十分に楽しんでいます。
- Q 子どもたちに ぜひすすめたいことはなんですか？
- とにかく、自分の手でものを作って、動かしてみる、或いは実験を試みる。そこに面白味を見いだし、

木下和久さんが子供たちに理科を教えています。

おもしろ科学たんけん工房のホームページができました
 URL = <http://tankenkobo.cool.ne.jp/>
 ホームページから[おもしろ科学体験塾]に申込みます。

私たちがめざすもの

「おもしろ科学たんけん工房」

「おもしろ科学たんけん工房」は、子どもたちに「理科が好きになってほしい」という願いをこめて集まったボランティアのグループです。おもしろ科学実験や、野外自然観察、手作り工作など、楽しんで体験できる場を毎月一回作っていきます。

その目的・意義を改めて整理してみます。

1. 知識を教えるのではなく、何かに夢中になれる子どもを育てたい。

知っていることと、それを役立てることとの間には、天と地の差があります。単なる物知りの知識では、なんの役にも立ちません。何かに夢中になってのめり込む。そして、その中から自分で掘り取ったもの、それが本当に役立つ知識＝知恵です。

2. “好きこそ物の上手なれ”という言葉があります。

好きになれば、人は、教えられなくてもそのことについて、自分からどんどん学んで行くものです。強い興味さえ持てば、子どもは親がびっくりするくらい、そのことについて深く深く入り込むものです。すべての子どもの中にある「自ら学ぶ力」を信頼しましょう。

3. 今の社会環境が、子どもの集中力と素朴な体験を奪っている。

- 刺激が多すぎて、集中しにくくさせている。上っ面の興味を引き付けて、子どもの気持ちを集中させないで、気を散らすような事ばかりしている。
- 世の中便利になりすぎて、素朴な体験の場を奪っている。出来上がった結果を利用するだけで、物事の成り立ちを知らないまま過ごしてしまう。言い換えるといろいろなものが「ブラックボックス」になってしまっていて中が見えない。科学技術の進歩の結果に取り巻かれているために、かえって科学技術への興味を失わせる結果になってしまっている。

4. 感動を伴った素朴な体験で、夢中になれることを子ども自身に見つけさせる。

基礎学力(読み書きそろばんなど)と、基礎体力は徹底的なトレーニングで身につけさせる必要があります。しかし・理科、美術、音楽、社会、スポーツ、芸能、など、執念や創造力が必要な領域では、なにかに集中して、のめり込むようにすることが大切。そのキッカケを学校や親や地域が作ってやれば良いのです。

5. 親(家庭)と学校と地域の住民とが連携して良い学習環境＝体験の場を生み出す事が大切。

- 自分の子どもだけ良ければという考えは捨てませんか? 教育は学校にお任せでもだめ。腰をすえた本物の教育こそが大切です。
- 地域で連携して良い子が育つ環境を作る。子どもたちが、夢中になれることを見つけられるように、周りが力を合わせて、子どもの中にあるすばらしい能力の芽を見つけて、それを伸ばし広げる努力をしましょう。

＜米を作るのではなく、田を作れ。＞

＜良い米は、良い田にできる＞

＜深く深く耕せ＞

私たち「おもしろ科学たんけん工房」はささやかながらそのような田を耕す作業の一つを担えればと願っております。

夏休みを活用した

父と子、母と子のおもしろ科学体験の場を紹介

「おもしろ科学たんけん工房」は、8月に科学体験活動ボランティアのための体験研修会を開催するため、子どもたちを対象とした「おもしろ科学体験塾」はお休みします。

夏休み中はさまざまな施設や場所で、親子ともども楽しめるイベントが盛りだくさんにありますので紹介します。

① 東京 科学技術館のイベント

(北の丸公園内:地下鉄 東西線 竹橋駅、九段駅から)

青少年のための科学の祭典2003

全国大会 7月24日(木)～7月28日(月)

1992年に始まったこのイベント。今年は12回目です。出展者が全国から、集まってきます。5日間のうち前半後半で入れ替えがあります。

② 神奈川県内のイベント

第3回かながわサイエンスサマー

平成15年7月20日～8月31日

神奈川県企画部科学技術振興課が、案内書をまとめています。6月末頃には、県内の科学館その他の関連施設に案内書が一般市民のために配付される予定です。

県内の学校・大学、研究施設、科学館、博物館、自然公園などがそれぞれに開催するイベントの総合案内書です。(以下昨年度の案内書から引用します)

「かながわサイエンスサマー」は夏休みの全期間、主に小中学生を対象として、科学技術の世界に楽しみながら、関心を持ってもらえるような行事を、県内の科学館、博物館、さらに県の研究機関などで行なうものです。

これらの行事では、簡単な工作や実験を行ないながら、またふだん見ることのできない展示などを通して、楽しく科学や技術に親しむことができます。

まめ知識 NPO / 特定非営利活動法人

NPOという言葉が最近目に付くようになりました。文字通りには“Non Profit Organization”の頭文字をとったもので、「非営利組織」と訳されています。

この言葉自体は法人であるかないかに拘わらず、広い意味で公益的な事業を行なう組織一般を指しています。これに対し、4年前に新たにできた法律にもとづいて設立される「特定非営利活動法人」のことをNPO法人という場合があります。漢字の呼称が長すぎるし、省略しにくいための便宜的な使い方だと思われます。

この場合の「非営利」という言葉の意味はしばしば誤解されますが、これは収益を得る活動を行なわないという意味ではなく、収入から支出を差し引いた剰余金(企業でいうと利益に当たるもの)を、分配することができない、分配してはいけないという意味です。NPO法人といえども、組織として発展してゆくためには、資金を内部に積み立ててゆく必要があることは当然のことなのです。

ボランティアを求めています。ぜひ